



野鳥の 不思議解明 最前線

#91

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

眠るセグロセキレイ。彼らも早く寝た個体がモテるのだろうか？ 撮影●内田博

寝る子はモテる？

～たっぷり寝る雄の方がモテるアオガラ～

クログミやキビタキのさえずりが賑やかです。日中も鳥のさえずりが賑やかなこの時期ですが、鳥がもっとも活発にさえずるのは日の出少し前です。調査のためには、ぼくもその前には起きねばなりませんので、どうしてもこの時期は寝不足になってしまいます。眠くなったらできるだけ仮眠をとるようにしていますが、それでも急に眠くなって、運転中「危ないかも」と思うときがあります。

同じく早起きの鳥はどうなのでしょう？ 睡眠不足で判断が鈍ってしまえば捕食される危険が増えそうな気がします。それなら早く寝て十分に睡眠がとれている鳥の生存率が高かったりするかもしれません。しかし、鳥が「いつ寝たか」なんてことを知ることは、簡単ではなく、これまで野外の鳥の睡眠の影響を調べた研究はありませんでした。そこでドイツのSteinmeyerさんたちは、アオガラ *Cyanistes caeruleus* が巣箱で寝る習性を利用して、巣箱内にビデオカメラを仕掛け、そこにねぐらをとるアオガラの睡眠状況を調べました。そして、それが生存率や繁殖に影響しているかを解析しました。

解析の結果、残念ながら(?) 睡眠の長短は生存率には影響していませんでした。この結果は、通常、鳥は生存率に影響するほど睡眠を削ったりはしていないことを示しているのかもしれませんが、もしねぐらのところで騒音がひどかったりと、外的な要因で安眠妨害を受けたのなら、また違う結果が出たかもしれません。

生存率には差はありませんでしたが、つがい関係については面白い結果がいくつか出てきました。その1つはつがいの雄雌の睡眠傾向が似ていることです。早起きの雄のつがい相手は早起きの雌で、寝坊助の雄のあいては寝坊助という傾向がありました。つがい形成時にそうした相手を選ぶのか、それとも夫婦の生活習慣が似てくるのか、どちらなのでしょううか？

もう1つは、早寝で睡眠時間の長い雄が、つがい以外の雌に子を産ませている率が高いことです。どういう仕組みでこうした雄が「つがい外子」を残せるのかは、わかりません。この連載の30号で早く鳴きだす鳥ほど早くつがい相手を得られることを紹介しましたが(Murphy et al. 2008)、起床時間は「つがい外子」を残せるかに関係ありませんでした。睡眠時間は生存率には影響しないとはいえ、それでも健康状態には影響していて、睡眠時間の長い健康状態のよい雄はモテるのでしょうか？ 今後の研究の進展に期待したいと思います。

紹介した論文

- Murphy, M.T., Sexton, K., Dolan, A.C. & Redmond, L.J. (2008) Dawn song of the eastern kingbird: an honest signal of male quality? *Animal Behaviour* 75: 1075-1084.
- Steinmeyer, C., Mueller, J.C. & Kempenaers, B. (2013) Individual variation in sleep behaviour in blue tits *Cyanistes caeruleus*: assortative mating and associations with fitness-related traits. *J. Avian Biol* 44: 159-168.